

5. 本学における教員養成教育の質を向上させる取り組みについて

東北学院大学では現在、以下の各取り組みを通じて教員養成教育の質の向上を図っています。

- (1) 教職課程における単位認定の適正化 現在の大学教育では、「単位の実質化」への取り組みの強化が求められています。これに先んじて、本学の教員養成教育では教職課程における単位認定の適正化を長年にわたり行ってきました。

本学に入学直後の時点で教職課程にエントリーする学生は、全学で毎年 500 名ほどにのりまします。しかしその後教職課程を履修する4年間に、学生たちは教職課程の各授業でもまれ、課題や試験、あるいは実習等と格闘していきます。その結果4年後の卒業時に教員免許状を受け取ることのできる学生は、入学時にエントリーした学生のうちおよそ3割、140 名ほどに絞り込まれます。本学の教職課程を履修している学生たちは、こうして自身の適性を自問しながら、教職への志向を確認していきます

- (2) 学校関連ボランティア活動等への参加の促進

① 小学校外国語ボランティア活動(仙台市教育委員会との連携)

平成 15 年度から文学部英文学科の教職課程履修者が中心となって、仙台市内の小学校を訪問し「外国語活動」の支援を行っています。毎年 30～40 名程度の教職課程履修者(英文学科・言語文化学科など)が参加し、英文学科の教職担当教員、仙台市教育委員会指導主事そして小学校教員とともに準備会・研修会を行って、外国語活動の計画を立てて授業を実施しています。文部科学省『英語ノート』(平成 24 年度からは『Hi, Friends!』)を中心とした英語活動に、本学の留学生を活用した国際交流活動および調べ活動を統合し、仙台市教育委員会、小学校、大学の連携の元に新たな形の小学校英語活動を構築しています。

② 「学生サポートスタッフ」の派遣(仙台市教育委員会との連携)

平成 20 年度から教職課程履修者を中心とする本学学生を、仙台市立小・中学校に「学生サポートスタッフ」として派遣しています。学生サポートスタッフは授業場面にとどまらず、学校生活全般において教員の補助を行っており、教職志望の学生にとって学校の実情や子どもの実態に触れる貴重な機会となっています。ボランティア希望の学生は、仙台市教委スタッフを招いて実施される「学生サポートスタッフ研修会」に出席し、教職課程センターに登録した上で活動を行いますが、今年度は延べ37名の学生が仙台市内の小・中学校8校で活動しています。

③「学び支援員」の派遣(宮城県教育委員会との連携)

「学び支援員」派遣は、宮城県が平成 23 年度から開始した被災地学習支援の事業です。事業は県内の市町村教育委員会に委託され、「学び支援コーディネーター」が企画する市町村単位の学習支援に、県内の各大学は「学び支援員」を派遣することになります。本学の場合は、被災地学習支援活動者名簿に登録している学生 50～60 名に派遣要請の情報を提供して、希望者を「学び支援員」として派遣しています。支援の内容は主に放課後の学習支援であり、派遣地域は全県に及んでいます。

④「多賀城スコーレ」開校(多賀城市教育委員会との連携)

本学は工学部の立地する多賀城市と連携して様々な活動を行っていますが、その一環として、平成 21 年度から夏休み中の5日間、平成 24 年度からは冬休みの3日間を加えて、本学多賀城キャンパスを会場に「多賀城スコーレ」を開校しています。多賀城スコーレには夏休み課題、冬休み課題を手にした同市内の小・中学生が今年度は229名参加し、工学部を中心とする本学の学生29名から学習支援を受けています。学部教育の特性から実験・実習の諸科目が多く、上記の学習支援に参加しにくい工学部の教職課程履修者にとって、この活動は小中学生に直接に接することのできる貴重な体験となっています。

(3) 学校インターンシップ等への参加の促進

東北学院大学は、「教職ミニ・インターンシップ」と称して、平成 26 年度後期から学校インターンシップへの取り組みを開始しました。インターンシップは、仙台市立仙台大志高等学校と仙台市立仙台高等学校、本学教職課程センターとの連携協力にもとづくものであり、高等学校の教育活動を直接観察し体験することを通して、教員としての姿勢や知識を育てることをねらいとするプログラムです。参加学生は主に3年生で、平成30年度のインターンシップは、仙台市立仙台高等学校において2月14日(木)に7名の学生(英語2・地歴1・公民3・数学1)が参加して実施されました。

(4) 現職教員研修会の共同開催

これまで宮城県総合教育センターを会場に開催されていた「中学校・高等学校英語科研修会」と「小学校外国語・外国語活動研修会」が、平成 30 年度から本学を会場に開催されることになりました。この企画は宮城県教育委員会と本学の包括的連携協定に基づき、宮城県総合教育センターと東北学院大学教職課程センターが共同で開催したもので、大学を会場に開催することの狙いの一つは、研修会に学生の参加を認めて、教職志望者の資質向上を図ろうとすること

あります。「中学校・高等学校英語科研修会」は6月14日(木)と21日(木)の2日間土樋キャンパスを会場に、「小学校外国語・外国語活動研修会」は6月28日(木)と7月5日(木)の2日間泉キャンパスを会場に開催されました。二つの研修会とも本学の教職課程履修者が主に模擬授業の生徒役として参加しましたが、教職志望の学生にとっては現職教員の実践的指導力を直接学ぶことができる大変貴重な経験となりました。